

氏 名 (本 籍) 稲 毛 博 実 (東京都)

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 記 番 号 博 乙 第 210 号

学 位 授 与 年 月 日 昭和59年 7 月31日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 5 条第 2 項該当

審 査 研 究 科 医学研究科

学 位 論 文 題 目 各種腎疾患における血小板の関与についての検討

主 査 筑波大学教授 医学博士 小 宮 正 文

副 査 筑波大学教授 医学博士 小 磯 謙 吉

副 査 筑波大学教授 医学博士 杉 田 良 樹

副 査 筑波大学教授 医学博士 田 村 昇

副 査 筑波大学助教授 医学博士 柏 木 平 八 郎

## 論 文 の 要 旨

免疫複合体によって活性化された血小板は、それ自身局所の血栓形成に関与すると共に、各種の chemical mediators の放出を介して、糸球体基底膜の透過性の亢進や免疫複合体の糸球体への沈着を促し、腎の炎症の惹起に重要な役割を果たすことが論ぜられている。

筆者らは慢性腎炎25例ほか77例の腎炎症例について、in vitro の血小板機能の指標と考えられている血漿  $\beta$ -thromboglobulin ( $\beta$  TG), 血漿 platelet factor 4 (PF 4), 血漿ならびに血小板中 serotonin (5 HT), および in vitro の血小板凝集能を測定し、腎炎各病型における血小板の関与について検討を加えている。

その結果、以下の成績をえた。

(1) 非ネフローゼ型膜性腎症、ループス腎炎および糖尿病性腎症において、血漿  $\beta$  TG, 血漿 PF 4 の高値と血小板 5 HT の減少、血漿 5 HT の上昇などが認められ、これらの病型では血小板の chemical mediators の放出が旺盛なことを物語る所見で、その発病機構に血小板の関与が大きいことを推測させた。

(2) 腎組織所見との対比では、慢性腎炎のうち、半月体形成を伴う増殖性変化のもの、ループス腎炎のうち、びまん性増殖性変のものでは、血漿  $\beta$  TG, 血漿 PF 4 などの上昇、血小板 5 HT の低下がみられ、血小板の放出した chemical mediators が、その発病機構に関与することを示唆する所見がえられた。

(3) 糖尿病性腎症では血漿 $\beta$ TG, PF4 および血漿5HTの高値がみられ, 血漿5HT/血小板5HT比も著明な高値を示した。しかし, 腎症を合併していない糖尿病でも類似の病変がみられたので, 糖尿病を基礎とした腎症の発病機構に血小板から放出されたこれら chemical mediators の直接的な関連性は結論できなかった。

## 審 査 の 要 旨

腎炎の発症に流血中に出現した免疫複合体が重要な役割を演じることは, 諸学者の指摘するところであるが, 本論文では, 免疫複合体が血小板に作用して, 血小板の chemical mediators を放出させ, その chemical mediators が腎の細血管病変を惹起させる病型があり, 半月体形成を伴う増殖性変化を示す慢性腎炎, びまん性増殖性変化を示すループス腎炎などが, その代表的疾病であることを実証している。この事実はこれら疾病の治療ないし予防に, 血小板機能抑制剤を用いる治療法の理論的根拠を与えるものでもある。

以上の点は, 本研究が大学院修了論文と同等ないしそれ以上の成果をあげたものと評価できる。よって, 著者は医学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものとみとめる。